**「読むこと」（説明的文章）学習指導案**

**第２学年国語科学習指導案**

指導者　　観音寺市立大野原中学校　　大塚　裕介

**１　単元名**

　　論証　～それって本当ですか？～

「黄金の扇風機」田中真知、「サハラ砂漠の茶会」千住博　（新しい国語２　東京書籍）

「『相手によって態度を変える人』のたった１つの特徴」ひろゆき　（DIAMOND online）

**２　単元について**

　（1） 本単元では、論証の習得と活用を目指す。論証は、生徒にとってなじみの薄い言葉であり、堅苦しく難しそうだと敬遠される傾向にある。しかし、普段の生活の中に論証はあふれており、誰かを説得する時や、議論をする時など、生徒の生活の中にも論証は存在する。論証の技術を習得・活用し、論証の説得力を見極めることができるようになれば、説明的な文章をうのみにしない自立した読者となり、社会に対し、正対して立ち向かうことができるようになるであろう。

　　　　本単元で扱う「黄金の扇風機」と「サハラ砂漠の茶会」は、どちらも「美」という共通のテーマについて、筆者の体験をもとに論じた説明的文章である。「黄金の扇風機」は筆者がエジプトで感じた日本との美的感覚の違いや価値観の変化を目の当たりにした体験から、美に対して心を柔軟に開いておくことの大切さを説いた文章である。「サハラ砂漠の茶会」は、筆者が見聞きした三つの事例を挙げ、「人間は皆同じである」ということを伝えるのが美的体験であると論じている。どちらの文章も、主張に対して根拠となる事例が述べられているものの、事例に対する解釈がやや主観的であったり、事例の数が少なかったりするので、筆者の論証の仕方を批判的に吟味しながら、論理の展開について学ぶのに適した題材である。

単元の最後には、活用教材としてひろゆき氏の文章を扱う活動を設定する。氏はインターネット掲示板「２ちゃんねる」の創設者であり、歯に衣着せぬ発言が話題となることの多い人物である。生徒の中には氏のYouTubeを視聴したことのある者が多く、テレビ番組にも頻繁に出演していることから生徒にとって身近な存在であり、「論破王」との異名を取る氏の発言を真に受ける生徒も少なくない。氏の文章を読んでその論証を吟味することは、日常生活ひいては社会生活の中に論証があると実感することにつながる。

重点指導事項は、〔思考・判断・表現〕の「Ｃ　読むこと」における「ア　文章全体と部分との関係に注意しながら、主張と例示との関係や登場人物の設定の仕方などを捉えること」及び、「エ　観点を明確にして文章を比較するなどし、文章の構成や論理の展開、表現の効果について考えること」である。本単元を通して、語の用い方や論証の仕方などを吟味する姿勢を身に付け、社会で活用できる読みの力を育んでいく。

　（2） 本学級の生徒は、国語に対して好意的な生徒が多く、１学期末に実施したアンケート調査によると、「国語の授業が好きですか」という質問に９０％以上の生徒が肯定的な回答をしている。一方、「苦手なジャンルは何ですか」の質問に説明的文章を挙げた生徒が半数近くおり、説明的文章に対して苦手意識を持つ生徒が多いことが分かっている。また、学力に不安のある生徒が多く、やや高度な問いかけになると答えることができなかったり、定期テストの記述式の答案には白紙で解答したりする生徒も見られる。さらに、グループ活動等で自分の意見を表現することに苦手意識を抱いている生徒も多い。

生徒はこれまでの説明的文章の授業において、「説得力」をキーワードに学習を行ってきており、「事実と考え」、「問いと答え」、「主張と例」などについて考えてきている。そして、説得力のある文章は、複数の事実を根拠にして論じられていることを学習している。アンケートによると、半数の生徒が生活の中でも説得力があるかどうかを意識していると回答しており、授業での学習内容と生活とがつながりつつあることがうかがえる。しかし、多くの生徒は、根拠が挙げられていればそれだけで説得力があると感じ、根拠自体の妥当性や主張とのつながりまで考えるに至っていないことが授業での様子から分かっている。

　（3） 以上を踏まえ、次の点に留意して指導をする。

　　・　生徒の興味・関心を引き出す単元構成の工夫

単元を通して興味・関心を持って論証を習得・活用することことを目指し、①「ゲーム形式での導入」、②「ニューヨークの事例の検討」、③「ひろゆき氏の文章の学習」を設定し、単元構成を工夫する。

①では、堅苦しく思われがちな論証をスムーズに理解できるようにするために、単元の導入としてゲーム形式で論証を知る（体験する）活動を設定する。身近な題材を取り上げてゲームを行うことで、身の回りに論証があふれていることを実感させ、論証に対する抵抗感を取り除くようにする。授業のまとめでは、ひろゆき氏の発言を取り上げ、論証を確認する。

②では、生徒の多くが持っている「根拠があればそれだけで説得力がある」という考えを揺さぶるために、特に、根拠となっている事例に焦点化した授業の流れを構想する。その中でも、筆者が別の文章で述べているニューヨークの事例を取り上げ、本文の根拠として入れるべきかどうかを検討する。筆者の主張との関係をすり合わせながら根拠の妥当性を吟味することにつながる。

③では、教科書外の文章としてひろゆき氏の「『相手によって態度を変える人』のたった１つの特徴」（DIAMOND online、2022）を扱う。学習に対して主体的に取り組むことができ、かつ、論証を意識することが自分の生活を確かで豊かなものにするという期待感を持たせることを目指す。また、単元の最初と最後にひろゆき氏の文章を扱うことで、生徒が自己の変容を見取りやすくなり、論証についての学びをより深く実感することができる。

　　・　生徒全員が学習に主体的に参加することができる学習課題・教具の工夫

　　　　どの生徒も主体的に学習に参加できる工夫を行う。例えば、二項対立型の学習課題や発問を設定する。これにより、苦手意識のある生徒でも、全員が自分の立場を明確にすることができる。また、自分の納得度を表現する「納得度メーター」を用いる。自分の考えを表明しやすくするとともに、他者の考えを可視化し、自分との差異が明確になることで、対話を喚起する効果も期待できる。これにより、より充実した学習意欲を引き出すことができるであろう。また、「論証カード」や「根拠カード」などを使用し、生徒がいつでも論証や根拠が十分かどうかを立ち止まって考えることができるようにしたり、議論がかみ合わなかったり方向性がずれたりしたときに立ち返って論点を見直すことができるようにしたりする。苦手意識を持つ説明的文章の学習に対してハードルを下げ、学力に不安がある生徒も含め、全ての生徒が主体的に授業に参加できる環境を担保したい。

　　・　学習の深まりや変容を自覚できる振り返りの工夫

　　　　単元を通して、毎時間、「論証」をキーワードにした振り返りの時間を設定する。さらに、単元で１枚の振り返りシートに記入するように振り返りシートの様式を工夫する。これらの工夫により、生徒は自己の変容を自覚するとともに、学習の深まりを実感することができる。また、単元の最後には、単元全体を通した振り返りを文章として記述する活動を設ける。その際も「論証」をキーワードとして自分の学びを振り返らせる。生徒は単元全体を通した自己の学びをより深く自覚し、学習内容を定着させることや社会生活に生かそうとする意欲の高まりを持たせることが期待できる。

**３　単元の目標**

　・　考えと根拠、具体と抽象など情報と情報との関係について理解することができる。【知識・技能】

　・　「黄金の扇風機」と「サハラ砂漠の茶会」を比較しながら読み、論証の仕方について自分の言葉で評価することができる。　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　【思考・判断・表現】

　・　ひろゆき氏の文章について、論拠を明確にして論理の展開について考えることができる。

【思考・判断・表現】

　・　複数の文章を進んで読み、意見を交流しながら筆者の論証の仕方に対する自分の考えを粘り強くまとめようとしている。　　　　　　　　　　　　　　　　　【主体的に学習に取り組む態度】

**４　単元の評価規準**

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| ア　知識・技能 | イ　思考・判断・表現 | ウ　主体的に学習に取り組む態度 |
| ・　考えと根拠、具体と抽象など情報と情報との関係について理解している。 | ・　「黄金の扇風機」と「サハラ砂漠の茶会」を比較しながら読み、論証の仕方について自分の言葉で評価している。  ・　ひろゆき氏の文章について、論拠を明確にして論理の展開について考えている。 | ・　複数の文章を進んで読み、意見を交流しながら筆者の論証の仕方に対する自分の考えを粘り強くまとめようとしている。 |

**５　単元の学習指導計画（全７時間）**

|  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- |
| 時 | 習得・  活用 | 目標 | 学習内容・学習活動 |
| １ | 習得 | ・　論証ゲームやひろゆき氏の発言を考えることを通して論証について理解することができる。 | ・　「論証ゲーム」を行い、論証について知る。  ・　ひろゆき氏の発言を読み、論証を確認する。 |
| ２ | 習得 | ・　「黄金の扇風機」と「サハラ砂漠の茶会」を読み、論証の仕方について理解することができる。 | ・　「黄金の扇風機」と「サハラ砂漠の茶会」を通読し、それぞれの文章の論証の仕方を確認する。  ・　「どちらの論証の仕方に納得するか」という学習課題について自分の考えを書く。 |
| ３  ４  (本時) | 習得 | ・　筆者が根拠として挙げた事例について主張と根拠の関係を吟味し、評価することができる。  ・　主張を支える根拠としてより説得力のある事例について考えることができる。 | ・　それぞれの文章で、主張に対する根拠となっている事例を吟味する。  ・　筆者が別の文章で述べている事例を、本文に付け加えるべきかどうかについて考える。 |
| ５  ６ | 習得・  活用 | ・　「黄金の扇風機」と「サハラ砂漠の茶会」の論証の仕方について、自分の考えを持つ。 | ・　前時までに考えた論証の仕方を比較し、それに対する意見文を書く。  ・　学級内で意見を交流し、考えを深める。 |
| ７  家庭学習 | 活用 | ・　ひろゆき氏の文章を読んで、論証の仕方について自分の考えを持つ。 | ・　「ひろゆきの論証の仕方に納得するか」という学習課題について考え、それに対する意見文を書く。  ・　論証をキーワードに単元を通した振り返りを書く。 |

**６　本時の学習指導**

　（1）　目標

　　　・　筆者が挙げた事例について、主張との関係を吟味し、評価することができる。

　　　・　主張を支える根拠として、ニューヨークの事例の是非について考えることができる。

　（2）　学習指導過程

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| 学習内容及び学習活動 | 予想される生徒の反応 | 教師の支援 |
| １　前時の学習内容を振り返り、学習課題を確認する。  【学習課題】  根拠となる事例は十分か  ２　学習課題について考える。  (1)　 班で考える。  (2)　全体で考える。    ３　ニューヨークの事例を根拠として入れるべきか考える。  ４　本時の学習を振り返る。 | ・　「サハラ砂漠の茶会」の事例について考えていたな。  【十分である】  ・　食べ物や芸術、アフリカでの体験など、具体例がたくさんある。  ・　「美しい心」は誰もが理解できるという点で説得力がある。  【十分でない】  ・　根拠となる事例に筆者の主観が多く、誰もが納得できる根拠とは言えない。  ・　「皆のもの」（９段落）は、「皆同じ」という主張とは結びつかないのではないか。  【入れるべき】  ・　アフリカ以外の場所でも「人間は皆同じ」を感じる体験をしたというのは重要だ。  ・　温度はおいしさよりも客観的なものなので、誰もが理解できるという点で説得力がある。  【入れるべきではない】  ・　アフリカでの事例と言っている内容はさして変わらない。  ・　インタビューやアンケートなど、筆者以外の人の意見やデータなどがあればいいのだが。  ・　事例があれば説得力が高くなると思っていたが、そうとも限らない。事例の中身をよく吟味したい。 | ・　論証カードを示し、論証について確認する。  ・　どの見方・考え方カードをもとに考えたかを併せて発表するよう指示する。  ・　議論をかみ合わせるために、見方カードによって整理しながら問い返したり、板書を工夫したりする。  ・　議論が深まるように、事例の量に着目した意見と内容に着目した意見を整理して板書する。  ・　筆者の別の文章で述べられている「人間は皆同じである」ことの根拠となるニューヨークの事例を示し、本文の事例として入れるべきかを考えさせる。  ・　思いつきで考えるのではなく、筆者の論証や主張を崩さずに考えるよう指示する。  ・　ニューヨークの事例を入れるなら、「どこに入れるか」「入れ替えるならどの事例か」など追発問し、生徒の考えを揺さぶる。  ・　本時に使用した見方・考え方カードを挙げながら振り返るよう指示する。 |

　（3）　評価

　　　・　筆者が挙げた事例について、主張との関係から自分の言葉で評価することができたか。

　　　・　主張を支える根拠としてより説得力のある事例について考えることができたか。